

サウスダコタの中絶論争 (6)

— 2010 年中間選挙と連邦政治が州に与える影響 —

佐々木 裕美

Anti-Abortion Controversy in South Dakota (6)

—Mid-Term Election and Washington D.C.'s Influence on the State Election(2010)—

Yuumi Sasaki

キーワード: サウスダコタ州 South Dakota、2010 年中間選挙 Mid-Term Election(2010)
リプロダクティブ・ライツ Reproductive Rights、共和党 Republican Party、
医療保険改革法 Healthcare Reform Act、ティー・パーティー Tea Party、
スコット・ハイドブリーム Scott Heidepriem、民主党 Democratic Party

はじめに

2008 年大統領選挙におけるバラク・オバマ (Barak Obama) の大勝利は、民主党に多くの議席をもたらした。連邦政府は上下両院において民主党が多数派となり、オバマ大統領の議会運営は容易なものになると予想された。しかし、民主党の完全支配は人々に「大きな政府」への警戒感をもたらした。結果として個人の生活への政治の介入を嫌う保守勢力がティー・パーティー運動と称して躍進した。同時にオバマの持つリベラルな印象は、必ずしもあらゆる民主党議員に歓迎されたわけではなかった。特に保守的な州から選出された下院議員の間では、ブルードッグ連合 (Blue Dog Coalition) と呼ばれる民主党保守グループが医療保険改革法 (Healthcare Reform Act) や経済刺激一括法案 (Stimulus Package) と呼ばれる経済支援策などの重要法案成立の鍵を握るようになった。サウスダコタ州選出の連邦下院議員ステファニー・ハーセス・サンドリン (Stephanie Herseth Sandlin)¹ もその一人であった。

オバマ民主党政権がブッシュ共和党政権から引き継いだ金融危機と国内経済停滞、イラク戦

争の長期化、アフガニスタン問題、失業率増加などの負の遺産は、2010 年まで悪化の一途をたどった。その中でオバマ政権が最もこだわり最も優先させたのが、永年の民主党の悲願、医療保険制度の改革であった。より多数の幸福をめざしたこの改革は、無保険の 5 千万人のアメリカ人を救う一方で、その痛みを引き受けることになった(と考える)多数のアメリカ人、特にレッドステイトの反感を買った。中でも成立の最終局面で大きな問題として浮かび上がったのが、中絶問題であった。

株式の下落、失業率の上昇、結果として持ち家の価値の低下など、一般市民の生活を取り巻く状況が総じて悪化する中、不安を煽る共和党の選挙戦略が功を奏した結果、オバマ大統領の支持率は大統領就任直後の 2009 年 2 月には 68%、不支持 25% であったのが、2010 年 8 月には支持 46%、不支持 52% と大きく後退した。

本稿では、サウスダコタ州での 2010 年の選挙結果をオバマ民主党政権が率いる連邦政治と関連付けながら振り返る。

I. 医療保険改革法 (Healthcare Reform Act)

2010年3月、オバマ政権が大局的な見地から最優先して取り組んだ医療保険改革法が成立した。その利点はいずれ国民に理解される良いものかもしれないが、有権者の多数がこれを歓迎しないまま11月の選挙は行われた。そしてそれはあらゆるレベルの民主党候補者たちの選挙に大きな影を落とした。その理由は第一に、13の邦がイギリス本国からの独立という共通の利益のためにつくりあげた「連邦」の成り立ちによる。アメリカの「州」およびアメリカ人には、強大な「連邦政府」を嫌う伝統的な気質がある。従って国民皆保険は州の裁量の範囲にある問題であって、連邦政府の出る幕ではないという議論である。これは1973年に妊娠初期の中絶に関して女性のリプロダクティブ・ライツを認めた最高裁のロウ判決に対し、連邦の州権侵害を訴える人々の主張にも通じる考え方である。第二に、それまで個人が購入していた医療保険には中絶費用が組み込まれていたことから、公的資金でその費用を支払うことに反対する保守派議員の一部が、法案成立の土壇場で、その問題を再浮上させた結果、選挙直前に「中絶問題」が大きくクローズアップされたことである。

ウォール・ストリート・ジャーナル(Wall Street Journal)が行った世論調査によると、オバマ大統領が医療改革法案に署名した2010年3月に医療改革が悪いアイデアだと答えた回答は48%、いいアイデアだと答えた割合は36%であった。選挙1ヶ月前の10月、同じ質問に対し、前者は46%、後者は36%とほとんど変わらない。しかも、医療改革が悪いアイデアだと「強く」感じるとの回答41%に対し、いいアイデアだと「強く」感じている人は25%に過ぎなかった²。つまり、民主党連邦政府が最も大きなエネルギーを費やした医療改革法が歓迎されないまま、全米の民主党候補者は選挙を戦い、投票日を迎えた。

1-1. 中絶反対派の抵抗

サウスダコタ州選出の上院議員で連邦上院多数派院内総務として大統領選への出馬を噂されたこともある民主党の実力者トム・ダッシュル(Tom Daschle)³は、近著 *Getting It Done* の中

で、医療保険改革という大事業に取り組んだ理由について次のように述べている。「大恐慌以来の最悪の経済状態から脱しようとは何千億ドルもの資金を投入している今、多くの人が、なぜこれほど大規模な医療改革に大統領も民主党も固執するのかと問うだろう。その答は、わが国の医療保険があまりに深刻で、この解決なくして完全な経済回復はないからだ。・・・今やらなければ再び取り掛かるまでにまた一世代を待たなければならなくなるだろう。」⁴

順調にゴールに近づいていた法案が暗礁に乗り上げたのは、ミシガン州選出の民主党保守派連邦下院議員バート・ステュパック(Bart Stupak)が一切の公的資金が中絶に使われないことを法案に明記しなければ、自分を含めた約40名の中絶反対の民主党議員が共和党と一緒にこの法案に反対すると宣言したときであった。ダッシュルは、議論の中心が結局またこの問題になったことに、「仰天した」⁵と述べている。ステュパックが40票を集票できることに疑問を抱きながら、政権は多くの妥協を強いられた。結局オバマ大統領は、中絶に公的資金を使わないことを約束する大統領行政命令を発行した。ステュパックはこの法案に賛成票を投じて選挙区の中絶反対者を怒らせ、2010年の連邦下院選挙への不出馬を発表した。

このように、保守的な選挙区選出の民主党連邦議員にとって医療保険改革法に賛成票を投じることは選挙を控えた時期に大きなリスクを伴うものであった。

1-2. 医療保険改革法案の合憲性

3月の成立直後、この新しい法律は、連邦政府が州およびその州民の権利領域を侵害するものとして、ヴァージニア州司法省とフロリダ州司法省が連邦政府を相手に訴訟を起こした。後者は26州⁶の共同訴訟であり、サウスダコタ州もこれに加わった。サウスダコタ州司法長官マーティ・ジャックリー(Marty Jackley)の公式発表⁷によると、訴訟に加わった理由は二つで、ひとつは憲法修正第10条(州と国民に留保された権限)⁸、もうひとつは憲法第1章第8節(通商条項)⁹の侵害である。この訴訟を起こす決定は、

ラウンズ知事、デュガード副知事(Dennis Daugaard)¹⁰とともに相談した結果であると
している。

I-3. サウスダコタ州選出連邦議員選挙への影響

医療保険改革法は共和党全議員が反対する中、連邦議会でも多数派を占める民主党議員の賛成で通過した。サウスダコタ州選出民主党連邦上院議員ティム・ジョンソン(Tim Johnson)¹¹は、もちろん賛成票を入れた。2008年に再選を果たしたジョンソンの任期は2014年までであり、選挙の心配をする必要がなかったのも事実であるが、ジョンソンは女性のリプロダクティブ・ライツを認める立場を明確にしている。連邦上院で反対票を投じたもう一人の共和党連邦上院議員のジョン・スーン(John Thune)¹²は2010年の選挙を控えていたが、民主党から対立候補は出なかった。

一方、2年毎に選挙が行われる連邦下院議員のサンドリンは、苦渋の選択を迫られた。財政支出と増税に目を光らせるブルードッグ連合の副議長を務め、医療保険改革法についても一度は反対票を投じたサンドリンは、常にサウスダコタ州民を意識し、民主党議員でありながら保守的な投票を心がけて来た。法案が上院を通過して下院に送られた時、ダッシュルは、ナンシー・ペロシ(Nancy Pelosi)連邦下院議長の求めに応じて同郷のサンドリンに接触したが、財政支出についての不明確さを理由に「この法案には反対票を入れるつもりだと言われた」と述べている¹³。ダッシュルは選挙を控えたサンドリンの立場をよく理解していた。サンドリンは、最終的には国家的視野から合衆国市民全体の利益のために賛成票を投じた。

こうして多くの保守派民主党連邦議員がこの一票によって自らの政治生命を賭す結果となった。リベラルな民主党とは一線を画し、2008年には54名を擁して民主党内の浮動票として議会で一定の力を持ったブルードッグ連合も、2010年選挙では28議席を失い、共和党が多数派となった連邦下院議会における影響力も失った。

II. 2010年中間選挙：民主党の大敗北

2010年選挙は、まさにオバマ大統領不信任を突きつける「共和党の年」となった。表1は、その結果を議席数の増減で示したものである。民主党は連邦上院の改選議席¹⁴のうち6議席を失い、それでも過半数の53議席を守ったが、連邦下院では61議席を失うという大敗北を喫した。さらに36州で行われた州知事選挙では7州を失い、州レベルでは、全米で680議席の州議員を失った。この敗北は、1974年のウォーターゲート事件直後の選挙で共和党が失った州議会の628議席を上回る過去最大の数字となった。あらゆるレベルの選挙で共和党が大勝利を収めたことがわかる。

II-1. ティー・パーティーの躍進

オバマ民主党政権への反発と、国家を今日の状況に至らしめた現職議員よりは新人を求める風潮が高まり¹⁵、そこに個人の生活への国家権力の介入を嫌う極右勢力ともいえるティー・パーティー(Tea Party)候補が共和党の中に出現し、多くの票と議席を獲得した。現在連邦議会内でティー・パーティー派(Tea Party Caucus)は60人を数える¹⁶。民主党保守のブルードッグ連合に替わって、今やティー・パーティー派が連邦議会内の浮動票として勢力を持ち始めた。

サウスダコタ州においても、州知事の共和党予備選挙に自称ティー・パーティー候補(Tea Party Republican Candidate)のゴードン・ハウイー(Gordon Howie)が出馬して10,430票(12%)を獲得した。

2010年9月に筆者も参加したワグナー(Wagner)の町のパレードでキャンディを配っていると、農場労働者風の男性に呼び止められ

表1 2010年選挙結果(全米) 2010.11.2.

	民主党議席	共和党議席
連邦上院	53 (-6)	47 (+6)
連邦下院	193 (-61)	242 (+61)
州知事	29 (-7)	20 (+7)
州議員	(-680)	(+680)

た。「あんたはどの党の人だい?」「ハイドプリーム陣営です。」と答えると「ティー・パーティーの候補者かい?」「いいえ、民主党の知事候補です。」「ムダムダ!ここではティー・パーティーでないと選挙には勝てないよ。」彼は、民主党知事候補の名前さえ知らなかった。

また、その直前に参加したラピッドシティ(Rapid City)での共和党昼食会(Republican Luncheon)でも次のようなことがあった。この昼食会はホリデイ・イン・ホテルを会場に5人の地元共和党候補者を迎えて行われた。メインスピーカーは、前任者ラリー・ロング(Larry Long)の中途退任に伴って知事から任命され、初めての選挙を迎えるジャックリー州司法長官であった。ジャックリーが話し終えた後、一人の牧場労働者風の男性が質問した。「この州では胎児の命を絶つようなことは絶対にはしてはならない。あんたはどう思っているのかね?」ジャックリーの答は男を満足させた。「私はプロライフです。」(I'm pro-life.)

こうして 2010 年選挙は、連邦政府のリーダーシップを否定する勢力が優勢の中、民主党にとって極めて不利な環境で行われた。

Ⅲ. サスダコタ州の選挙結果

アメリカ政治学を専門とする元高校教師で、元州下院議員のビル・トンプソン(Bill Thompson)¹⁷は 2010 年の選挙を次のように総括した。「全米のあらゆる州で、地方の選挙が国政の影響を大きく受けました。・・・人々はオバマに、民主党連邦議会に怒っていました。・・・人々はただ感情で投票しました。心情的でさえなく、全く頭を使わずに投票しました。その結果サウスダコタの民主党がどうなったかといえば、我々は三重の打撃を受けました。まず素晴らしい人たち(議員)を失いました。次に議席数を大きく減らしたことで影響力を失いました。そして失った素晴らしい議員の議席が、共和党というだけで無能な輩にとって代わられました。」¹⁸

サウスダコタ州民主党の敗北は表 2 に示すとおり、選挙結果に顕著に表れた。民主党は連邦下院議会のたった一つの議席を失い、州レベル

の公職に立候補したすべての有力州議員が全員落選した。さらに州議会では上院で 9 議席、下院で 5 議席を失った結果、上下両院において議員数が 1/3 に届かず事実上共和党単独支配の議会になったのである。現在民主党で被選挙人代表として公職にあるのは、選挙のなかった連邦上院議員のジョンソンただ一人となった。

連邦政府の主導による政策は、たとえそれが国家的危機に対応するものであってサウスダコタ州にはほとんど影響を及ぼさないものであったとしても、同州の人々に必要以上に大きな心理的影響を与えた。候補者は共和党候補というだけで圧倒的優位に立つことができる環境が整っていたといえる。実際、共和党の予備選挙が行われた選挙はすべて、予備選挙に勝った共和党候補が本選挙でも勝利を手にした。

Ⅲ-1. 連邦上院議員選挙結果

共和党の現職連邦上院議員スーン(Thune)は、対立候補のない選挙を行い、227,947 票を得て難なく再選された。2012 年の大統領選に興味を示す発言を行ったが、州内の大方の見方は有権者の注目を集めて選挙資金を募ることが目的というものであった。連邦議会で活躍し、サウスダコタ州との繋がりが希薄なイメージを与えることが次の選挙での落選を意味することは、2004 年に連邦上院院内総務のダッシュルを選挙で破ったスーンが一番よく理解しているはず

表 2 2010 年選挙結果(サウスダコタ州)

	民主党議席	共和党議席
連邦上院	1 (改選なし)	1 (現職再選)
連邦下院	現職落選(-1)	1 (新人)
州知事		前副知事
州副知事		元州議員
州司法長官		任命後選挙
州務長官		前州上院議員
州監査役		前州財務長官
学校公有地		現職再選
州財務長官		元州監査役
公益事業		3 (100%)
州上院	5 (-9)	30(+9)
州下院	19(-5)	50(+5)

である¹⁹。

Ⅲ-2. 連邦下院議員選挙結果

連邦下院議員として高い人気を誇り、州内のリベラル派からは「共和党のような投票をする」と不満の声が出るほど常に注意深く州民に寄り添ってきた現職のサンドリンさえ、新人の共和党候補者クリスティ・ノーム (Kristi Noem) に敗れた。

2004年の選挙で207,837票(53.56%)、2006年230,468票(69.09%)、2008年256,041票(67.56%)で当選を果たした人気の高いブルードッグ連合のサンドリンでさえ、共和党女性新人候補ノームを相手に苦しい選挙戦となった。ノームの戦略は、民主党のリベラル、ペロシ下院議長とサンドリンの投票を重ね合わせて、サンドリンが民主党員であることを強く印象付けることであった。

州全体で1議席の連邦下院議員を3期務め、州内の共和党支持者の間でも人気のあったサンドリンが、新人の共和党女性候補でしかも州下院議員を2期務めただけの政治家としては未知数のノームに敗れた。代々政治家の家庭に生まれ²⁰、法科大学院で教鞭を取っていたサンドリンに対し、ノームは大学在学中に実家の農場で父親が事故死したため、農場を継ぐために退学して家に戻り、懸命に働いた「農場経営者」である。ノームは早くに結婚して3人の子どもを持ち、サンドリンは連邦議会では出会ったテキサス州出身の元連邦下院議員と結婚して2008年末(前回選挙後)に最初の子を出産した。出身も経歴もまったく異なる二人の共通点は、ともに38歳と39歳の若くて美しく弁舌の上手い魅力的な女性という点であるといえよう。州民は、サンドリンの実証された政治家としての経歴よ



クリスティ・ノーム



ステファニー・サンドリン

り、自分たちと「同じ」ように牧場経営の立て直しという経済的苦難を経験して乗り越えた共和党候補者ノームを選んだのである。そしてこの投票態度は、州知事選挙においても見られた。

ところで、連邦下院議員と州知事の選挙において民主党の候補者はそれぞれ一人であったのに対し、共和党は複数の候補者が名乗りを上げた。そこで、予備選挙(Primary Election)について少し触れておきたい。本選挙は全米で同日(11月の第一月曜日の翌日)に行われるが、同じ党から複数の候補者がいる場合には、本選挙に先駆けて各党の予備選挙が行われる。予備選挙の方法および時期は、各州の裁量に任されており、その目的は各選挙区で党の候補者を統一することである。サウスダコタ州では予備選挙は偶数年の6月の第一月曜日の翌火曜日に行われる²¹。

本選挙の前に党内予備選挙を行うことは、一方で余分な選挙資金を必要とするが、他方で選挙運動を早く始められるという利点がある。例えば、2010年を例にとると、州内のあらゆる公職の立候補届け出期間は1月1日から3月30日までの3ヶ月間であった。連邦下院議会には共和党から3人、州知事には共和党から5人が立候補の届出を行った。2月、候補者がすでにそれぞれ一人に統一されていた民主党とは異なり、共和党の選挙運動の火蓋が切れて落とされた。州内全域の「共和党登録選挙民」に向けて、候補者がメッセージの発信を開始した。こうして共和党候補者の名前は6月までにすでにメディアで取り上げられ、予備選挙までの期間を通して本選挙を見据えた選挙運動が行われた。ノームは、この予備選挙運動中に支持者を増やし、サンドリンを上回る額の選挙資金を集めた²²。

魅力的な容貌に加えて演説の巧みさは、サウスダコタのサラ・ペイリン(Sarah Palin)²³との異名をとったほどである。オバマの不人気とともに、2010年6月初めにはサンドリン有利であった世論調査の支持率が、月末には拮抗し始めていた²⁴。

民主党候補者が9月に入ってからようやく街路に候補者の看板を立てることができた頃には、共和党予備選挙の勝者は、すでに知名度を上げていたと同時に、ほとんど本選挙の勝利を手

していたといえる。

Ⅲ-3. 州知事選挙結果

州知事選挙においても、予備選挙が共和党候補者にとって抜群の宣伝効果を持ったことは言うまでもない。2006年以來次期州知事候補として共和党から恐れられた民主党知事候補スコット・ハイドプリーム(Scott Heidepriem)は、共和党現職副知事のデニス・デュガード(Denis Dugaard)に成す術もなく敗れ去った。

2010年2月の州議会会期中、民主党は1970年代のクナイブ(Kneip)知事時代以來の政権奪回への期待と希望で活気にあふれていた。しかし選挙戦は、11月までの間に大きく方向転換した。何もかもが共和党主導になっていた。ハイドプリームが、ワシントンD.C.の政治力学をサウスダコタの選挙に持ち込ませないために自らを「インデペンダント・デモクラット」(Independent Democrat)と位置付けたのは、州内の民主党支持者の中にも連邦政府のオバマ民主党政権に対して批判的な人たちが多数いるためであった。行動する民主主義(Democracy In Action)のカレン・ホール(Karen Hall)は次のような心配を口にした。「民主党の人たちはオバマに怒っています。彼らの多くが投票所に行かないでしょう。これは、州内の民主党候補にとって大きな打撃です。」²⁵

表3で見られるように、投票所に出かけた323,410人の有権者が最も多く投票したのが州知事選で317,083票、次に州司法長官選で302,681票、そして連邦下院議員選で300,292票と、これら3つの選挙については30万人を超える有権者が投票した。それだけ州知事選挙が注目されていたことがわかる。

選挙戦を振り返って、ハイドプリームは次のように述べた²⁶。「やりたかったことはすべてやりました。選挙資金集めをし、素晴らしい選挙運動組織を持ち、あらゆる努力を惜しみませんでした。サウスダコタの選挙民は候補者をよく見ずに共和党に投票しました。彼らにとって教育重視やより良い医療保険制度を求める民主党の政策は財布から金を奪っていくもので、脅威に映ったのだと思います。」

「時期が悪かったと思いますか」の質問に、「明らかにそうでした。我々は相手より良いメッセージを持っていました。私の方が知事候補として優れていたと思います。すべての公開ディベートでも私の方がはるかに勝っていました。それは誰もが認めるところです。それでも選挙民は共和党を選びました。シリアルブランドに好みがあるのと同じでどうしようもできないことです。」州知事に立候補することを決めた時と選挙当日とは、世の中の状況があまりにも民主党不利に動いていた。「それが選挙というものです。立候補を決めるのは選挙の15ヶ月前ですから、選挙当日の雰囲気はどのようなものになるかは知る由もありません。有利になっていくのか不利になっていくのか、誰にもわからないのです。」

ハイドプリームはサウスダコタ州でこれまで民主党候補が集めたことのない額の選挙資金を集めた。「いくら使いましたか」の問いに「150万ドル使いました。相手は300万ドル使ったと思います。これだけの額を寄付してもらったことに対して文句は言えません。相手は素晴らしい戦略を使いました。できるだけ多くの資金を集めて政治的立場を明確にしないという戦略です。何もせずにただ個人的な話(耳の不自由な両親に育てられ苦学したことや高校時代のガールフレンドと結婚し、限られた生活費でやりくりしたことなど庶民的な自分の生い立ち)だけを発信し続けました。それがうまく行ったのです。私には発信したい良い話がたくさんありました。けれども、彼に対抗できる量を発信するための資金がありませんでした。」

結局ハイドプリーム陣営は、現状の州の課題を整理して、それを解決するための明確な方法だけを発信することに費やした。それが、課題の解決に立ち向かう「強い」候補を印象づけた。

2000年以來、全米最優秀弁護士—民事訴訟部門(The Best Lawyers in America—Civil Litigation Section)に名を連ね、サウスダコタの政治に関わるためにハーバードではなく州立大学の法科大学院を選んだ彼は、カントリークラブに属し、大邸宅に住み、湖畔と山中に別荘を持っていた。2010年9月、彼が予想したデュガードの中傷キャンペーンは二つあった。ひ

とつは「ハイドプリームは金持ちで、我々普通のサウスダコタ人とは違う」と言って自宅や別荘の写真を見せること、もうひとつは「ハイドプリームは中絶推進派で胎児の生命を重んじる我々サウスダコタ人の価値観を共有しない」という宣伝であった。「ネガティブ・キャンペーン」と呼ばれるこの手法は、選挙が接戦になった場合にしか使われない。そして最後まで、デュガード陣営はこれを行わなかった。必要がなかったのである。つまり民主党候補ハイドプリームの完敗であった。有権者は、連邦政治においてオバマが発揮しようとしていた強いリーダーシップに嫌気がさしていた。

選挙事務所を統括したマイク・コール(Mike Cole)は、選挙後に求められて次のようなメールを関係者に送った。2010年の選挙のことを「専門家はうねりの選挙(wave election)だ」と評していますが、今回の選挙はそれをはるかに超えたものでした—津波(tide)がアメリカ中に押し寄せ、サウスダコタではその影響が特に大きかったと思います。」と全国的な民主党の敗北について触れた後、新聞やテレビの不当な扱いについて失望を述べた。「ハイドプリーム陣営の選挙運動は、不活発で選挙戦に見向きもしないメディアとの戦いでした。」その例として、周到な準備をして臨んだ女性のための政策についての記者会見を挙げた。「50人の女性がスコットとともに立ち、4人の代表女性が演説しました。

女性に関する政策は二人の知事候補の立場が大きく異なる争点でした。ところが翌日報道されたのはデュガード共和党知事候補の発言だけで、スコットの発言は全く取り上げられませんでした。見出しは『両知事候補、女性票獲得に動く』というものでした。…何日もかけて設定した記者会見だったのに、何もしなかったデュガードに有利な結果をもたらしただけで、全く期待外れでした。」州内のあらゆる新聞もテレビも、現職副知事のデュガード共和党候補支持を表明し、ハイドプリームを支持するメディアがひとつも存在しなかったことは、憲法で守られた表現の自由が守られているとはいえ、驚きに値する。コールは政策についてのどんな質問にも具体策を提示して答えるハイドプリームとは対照的に「柔軟に対応します」としか答えないデュガード候補の態度をメディアが好んだことを「全く信じがたく、組織ぐるみのこの平凡好みこそが、州民主党が越えるべき最大の障害なのかもしれません。」と締めくくった。

候補者のメッセージが有権者に平等に伝わるためには同額の選挙資金が必要とされる。共和党知事候補と民主党知事候補の資金がほぼ2対1の割合で、その差額が150万ドル、しかもすべてのメディアが前者に好意的であったとすれば、後者にとっては不利な戦いを強いられる。それにオバマ民主党政権の不人気追い討ちをかけた。ただでさえ人数の少ない民主党支持者が選挙に行かなかった。これがレッドステイト、サウスダコタ州の現実である。

表3 サウスダコタ州選挙 2010.11.4.

	得票数 (率) 民主党	得票数 (率) 共和党
連邦上院		227, 947 (100%)
連邦下院	146, 589 (45. 89%)	153, 703 (48. 12%)
州知事	122, 037 (38. 49%)	195, 046 (61. 51%)
州務長官	118, 635 (39. 23%)	163, 828 (54. 17%)
州司法長官	100, 182 (33. 10%)	202, 499 (66. 90%)
州監査役	117, 218 (40. 15%)	181, 975 (62. 35%)
州財務長官	101, 924 (34. 75%)	191, 408 (65. 25%)
学校公有地	95, 244 (33. 51%)	188, 985 (66. 49%)
公益事業	79, 543 (26. 79%)	217, 346 (73. 21%)
州上院	96, 411 (35. 00%)	179, 050 (65. 00%)
州下院	174, 896 (37. 08%)	279, 424 (59. 23%)

III-4. 州公職選挙結果

表3に示した通り、すべての州公職選挙で共和党候補が勝利した。州務長官以下のどの公職も予備選挙は行われなかった。この大差の原因のひとつは、有権者の政党登録者数に見ることができる。表4に見られる通り、民主党登録者と共和党登録者の間には絶対的な数の違いがあり、インディペンダントが増加している。小選挙区の選挙民の家を一軒一軒訪れてことばをかわすことが重要とされる州議員候補者の選挙活動とは異なり、州全体を選挙区とする州公職候補者に直接出会う機会はほとんどない。知名度

と所属政党が有権者にとって重要な判断材料なのである。表3の中で、現職の州公職者が候補者となった司法長官、学校公有地長官、公益事業長官の得票率が多いことから共和党現職が圧倒的に選挙に強いことは明らかである。デュガード共和党知事候補もまた現職の副知事であったことを考慮すると得票率においては最低の州務長官に次いで二番目に低く、ハイドブリーム民主党知事候補が善戦したとは言えそうである。

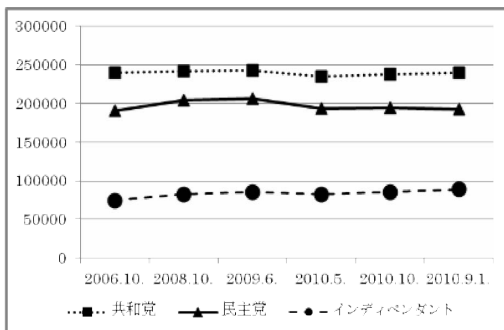
Ⅲ-5. 州議員選挙結果

州議員選挙において、民主党は大きく後退した。これにはいくつかの理由があげられる。そこで、紙面の制約から州上院に的を絞って見ていく。

第一に、州上院の有力議員が州公職一知事、州務長官、州監査役に立候補した結果3議席が空席となり、2議席を共和党に失った。さらに1人が家庭の事情で下位公職に立候補したため空席になった議席を共和党に失った。この議員マーガレット・グレスピー(Margaret Gillespie)は、2006年の中絶禁止法の提案者にもなった保守派のカトリック教徒である。政党をインディペンダントに変えて郡政委員に立候補したが、共和党候補者に1,128対736の大差で落選した。政党を変えたのは、彼女自身が民主党不利を感じてのことであったと考えられる。

第二に現職の共和党下院議員が上院に移って立候補した選挙区ではことごとく共和党が議席を獲得した。知名度で劣る新民主党候補はもちろんのこと、民主党現職も苦戦を強いられた。

表4 政党登録者数



http://sdsos.gov/の資料をもとに作成

第三に、4人の有力民主党現職が共和党の狙い撃ちに遭って落選した。第5区のナンシー・ターバック・ベリー(Nancy Turbak Berry)、第7区のパム・マーチャント(Pam Merchant)、第12区のサンディー・ジャースタッド(Sandy Jerstad)、第25区のダン・アーラーズ(Dan Ahlers)である。いずれも2006年に共和党現職を破って当選した女性のリプロダクティブ・ライツを擁護する議員たちであった。

第四に、共和党の誘いに乗って二人の現職民主党州上院議員が所属政党を共和党に変えた。このうちの一人ライアン・マーハー(Ryan Maher)²⁷は「私はもともと共和党でした。最初に立候補を決めた2006年には共和党の予備選挙がすでに終わっていたので候補者のいなかった民主党から立候補したのです。2010年議会が終わった後、共和党から誘いがありました。それで政党を替えたのです。」彼はカトリックで中絶禁止法に賛成の立場を取る保守派である。2008年の選挙は民主党で当選した。両方の党を比べてみてどうかと問うと、「共和党の方が10倍多くの情報を持っています。民主党にいた時にはどうなっているのだろうか」と話し合っていたことがすべて判るのです。」と多数派政党の優位を口にした。リプロダクティブ・ライツの問題についても、「民主党の政策は中絶を容認する一方で、いったん生まれてしまえば福祉でその子の面倒をみようとする。共和党は生まれる前の命についてはうるさく言うが、生まれた後のことは自己責任と言う。おかしいね。」と笑った。もう一人は民主党候補として当選してから、党内人事への不満が原因で共和党に移ったエルドン・ナイガード(Eldon Nygaard)であった。選挙では6人の民主党候補が当選したのに、議会が始まると5人に減っていたのである。これら二人の議員にとって所属政党はあまり重要な要素ではないように思われる。

他方、共和党上院議員として一期を務めたあと民主党に戻って来た議員が一人いる。インディアン人のジェームズ・ブラッドフォード(James Bradford)である。彼は、2001年に州下院議員に当選して以来議員の職にこだわっていた。2008年の民主党予備選挙で敗れたあと、共和党に党を変えて再び同じ候補者を相手に選挙を行

って勝ち、共和党上院議員として一期を務めていた。選挙民が圧倒的に民主党のインディアン保護区選出のブラッドフォードは、「共和党は私にとっては居心地の悪いところでした」と述べた²⁸。

州民は、経済低迷、高い失業率の非難の矛先を民主党政権、あるいは現職議員に向けた。そして医療保険改革法成立直前、大問題として立ち上がった中絶問題は、2005年以降、中絶をめぐる議論が絶えなかったサウスダコタ州を一層保守へと向かわせた。2011年州議会の特徴は、共和党内ティー・パーティ議員の数の多さである²⁹。

IV. 揺るがぬレッドステイト

2006年からサウスダコタ州の中絶問題を扱ってきた一連の議論の中で、これが3度目の選挙となったが、2010年の選挙結果は政党にとって特に重要な意味を持つ。それは、全米で10年毎に行われる国勢調査の結果により、選挙区の再区画(redistricting)が行われ、州議会でも多数派を占める政党がこれを支配し、自分たちの政党にとって有利な選挙が行えるように、再区画を行うからである。その意味でこの敗北は、サウスダコタ州民主党にとってさらに大きな痛手となる。これについては議論を別の機会に譲る。

さかのぼって2008年の選挙は、「チェンジ」を訴えたオバマを筆頭に全米で民主党が議席を増やした、確かに「民主党の年」であった。しかし、サウスダコタ州の現実、同州選出の連邦上院・下院の議席は民主党現職が守ったものの、州政治は共和党知事のもと、依然として圧倒的に共和党の手に握られていた。同年のサウスダコタ州議会の選挙結果は民主党が議席を増やしたとはいえ、数の上では州上院35議席中14、州下院70議席中24と、共和党の圧勝であった。民主党が州両院で辛うじて1/3の議席を獲得したことは、共和党の完全支配を阻む点において議会運営の上で確かに重要な意味を持った。しかし、州民主党の側からすれば、サウスダコタ州は救いようもないほど共和党が強く、どんなことをしても民主党候補が共和党候補に勝つことはできないことを思い知った選挙でも

あったのである。

顧みれば、民主党絶頂期の2008年においてさえ、同州大統領選挙における民主党オバマの得票170,924(44.75%)は、共和党マッケインの得票203,054(53.16%)に遠く及ばなかった。

おわりに

表5は、過去13年間のサウスダコタ州議会に提出された中絶関連法案数を示す。中絶反対はラウンズ前州知事にとっての重要なイシューであった。一期目(2003年1月～2007年1月)には23の関連法案が提出され、10件が署名され法律となった。このうち1件は現在連邦裁判所の手にある。二期目、女性のリプロダクティヴライツを容認するカヌードソン(Knudson)とハイドプリームがそれぞれ共和党と民主党の州上院院内総務に就任し、この間に議会に提出された中絶関連法案は8件、議会を通過し知事が署名したのはたった1件と激減した。

そして2011年、保守派が過半数を占める州議会では、州内の中絶禁止活動家レスリー・アンルー(Leslie Unruh)が主宰する妊娠緊急相談所(Pregnancy Crisis Center)の活動を称える両院共同決議案が反対1票で可決された。さらに、新たな中絶規制法(HB1217)³⁰が提出され議会を通過、デュガード新知事が署名した。家族計画協会が憲法違反の可能性を根拠に連邦裁判所に差し止め命令を要求し受理されたこの法律については、紙面の都合で次回に扱う。

多数の保守派議員の誕生により、中絶禁止をめぐる終りのない議論が再び始まった。民意が

表5 サウスダコタ州中絶関連法案数

年度	法案数	議会通過
1999～2003	0	0
2004	2	1
2005	7	5
2006	6	3
2007	4	0
2008	3	1
2009	1	0
2010	0	0
2011	1	1

それを望むのか否かは、2012年の選挙結果が教えてくれるはずである。

¹ 1970年12月3日生、女性、サウスダコタ州選出連邦下院議員2005年-2011年、民主党。

² Wall Street Journal 日本版2010年10月22日 Capital Journal 政治コラム「2つの数字で読み解く米中間選挙」。ここで扱う2つの数字とは、46と48で、前者は医療保険改革が悪いアイデアだと考える有権者の割合、後者は10年の経験を持つ候補者よりも新人を選ぶとしている有権者の割合。

³ 1947年12月9日生、男性、サウスダコタ州選出連邦下院議員1979年-1987年、同連邦上院議員1987年-2005年、民主党。

⁴ Tom Daschle, *Getting It Done* (2010: Thomas Dunne Books), p.4

⁵ 同上, p. 208.

⁶ 訴訟に加わった26州は、アラバマ、アラスカ、アリゾナ、コロラド、フロリダ、ジョージア、アイダホ、インディアナ、アイオワ、カンザス、ルイジアナ、メイン、ミシガン、ミシシッピ、ネブラスカ、ネヴァダ、ノースダコタ、オハイオ、ペンシルヴェニア、サウスカロライナ、サウスダコタ、テキサス、ユタ、ワシントン、ウィスコンシン、ワイオミングの各州。

⁷ <http://atg.sd.gov/TheOffice/HealthCareLawsuitFAQ.aspx>

⁸ 合衆国憲法修正第10条「この憲法が合衆国に委任していない権限または州に対して禁止していない権限は、各々の州または国民に留保される。」すなわち、医療保険は連邦に委任された権限ではないという点である。(前掲ホームページより)

⁹ 合衆国憲法第1章第8節「連邦議会の立法権限」を根拠に、憲法は医療保険のような特定商品の購入を個人に強制したり、それに従わない場合に罰則を与えたりする権限を連邦議会に与えていないと主張する。(前掲)

¹⁰ 1953年6月11日生、男性、サウスダコタ州上院議員1997年-2003年、同副知事2003年-2011年、同知事2011年-2015年、共和党。

¹¹ 1946年12月28日生、サウスダコタ州下院議員1979年-1983年、同州上院議員1983年-1987年、同州選出連邦下院議員1987年-1997年、同州選出連邦上院議員1997年-2015年、民主党。

¹² 1961年1月7日生、男性、サウスダコタ州選出連邦下院議員1997年-2003年、同連邦上院議員2005年-2016年、共和党。

¹³ ダッシュル、前掲書、p. 212

¹⁴ 米連邦議会では2年毎に上院(定数100、任期6年)の1/3の議席と下院(定数435、任期2年)の全議席が改選される。2010年上院は従来の33議席に加えて、オバマ大統領、バイデン副大統領、クリントン國務長官の就任によって空席となった3議席の選挙が加わって36議席の改選が行われた。民主、共和両党の改選対象議席数はいずれも18。

¹⁵ 2010年6月8日発表のギャラップ調査 <http://www.gallup.com/poll/139409/Voters-Favor-Congressional-Newcomers-Incumbents.aspx>

¹⁶ ティー・パーティ派の代表を務めるミネソタ州のミシェル・バックマン(Michele Bachmann)連邦下院議員のホームページによれば、2011年7月12日現在、第112連邦議会です正式にティー・パーティ派に属する連邦

議員は60名、その内訳は多い順にテキサス(11)、フロリダ(7)、ルイジアナ(5)、カリフォルニア(4)、ジョージア(4)、サウスカロライナ(3)、ミズーリ(3)、テネシー(3)、インディアナ(2)、カンザス(2)、コロラド(2)、アイオワ(1)、アラバマ(1)、アリゾナ(1)、イリノイ(1)、ウエストヴァージニア(1)、ノースカロライナ(1)、ニューメキシコ(1)、ミシガン(1)、ミネソタ(1)、メリランド(1)、ミシシッピ(1)、モンタナ(1)、ユタ(1)である。バックマンは、2012年大統領選挙への立候補を表明している。

¹⁷ 1944年2月13日生、男性、サウスダコタ州下院議員2003年-2011年、民主党。

¹⁸ 2011年2月12日、トンプソンの自宅にてインタビュー。

¹⁹ スーンの選挙参謀を務めたジョン・ローク(Jon Lauck)は、スーンがダッシュルを破った2004年の選挙について書いた著書の中で、連邦政府民主党の顔になったダッシュルを「大物になり過ぎた」と評し、「謙虚さがサウスダコタ州の第一の価値観である。サウスダコタ州民は皆、自分たちに値するのは平凡な人だと思っている。本物のサウスダコタ州民はカントリークラブには入らずスーツは量販店で買い、ごちそうはローストビーフとマッシュポテトなのだ。それがダッシュルのような裕福な人種を嫌う平原地帯のポピュリズム(Prairie Populism)なのだ。」と述べている。Jon K. Lauck, *Daschle vs. Thune, Anatomy of a High-Plains Senate Race* (2007: Oklahoma UP), p. 202.

²⁰ 祖父ラルフ・ハーセス(Ralph Herseth)は元サウスダコタ州知事、祖母ローナ・ハーセス(Lorna B. Herseth)は元州務長官、父ラース・ハーセス(Lars Herseth)は20年間州上院議員を務めた元州知事候補、夫は元テキサス州選出連邦下院議員マックス・サンドリン(Max Sandlin)。保守派ブルードッグ連合の副代表であっても、民主党サラブレッドのイメージがあまりにも強すぎたのかもしれない。

²¹ サウスダコタ州法(SDCL12-2-1)

²² ワシントンポスト紙は、利益団体および政党からサウスダコタ州連邦下院議員選挙への選挙資金について、その合計額2,651,621ドルのうち2,077,135ドルが共和党候補ノームに、574,487ドルが民主党候補サンドリンに流れたと報じた。

<http://www.washingtonpost.com/wp-srv/politics/campaign/2010/spending/SD-01.html>

²³ ワシントンポスト紙2010年8月23日

<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2010/08/22/AR2010082203217.html>

²⁴ <http://www.electionprojection.com/2010elections/statepages/sd10.php>

²⁵ 2010年9月1日ラピッドシティにてインタビュー。

²⁶ 2011年2月11日スーフオールズの自宅にてインタビュー。

²⁷ 1977年8月19日生、男性、サウスダコタ州上院議員2007年-2011年、民主党、同2011年-2013年、共和党。2011年2月8日、州上院ロビーでインタビュー。

²⁸ 2011年2月9日州上院事務所にてインタビュー。

²⁹ 第15区の現職民主党下院議員のパット・カーシュマン(Pat Kirschman)は同僚議員の中から18人の州共和党下院議員をティー・パーティ派(的)としてあげ、ビル・トンプソン元下院議員は6人の州共和党上院議員と27人の州共和党下院議員を超保守派としてあげた。

³⁰ この法案の提案者として27人の州下院議員と11人の州上院議員が名を連ねる。